

1. 授業の概要(ねらい)

教育問題についての「語り」は世の中に満ちあふれている。今後の社会の行方は教育と多少なりとも関わっているために、なにか問題を見出すと、人びとは教育を語りたくなるのだ。

そこで語られていることは、たとえば次のようなことかもしれない。今の子どもや若者は「生きる力」がない、キレやすい、「ヴァーチャル」と「リアル」の区別がつかない、人間関係がどんどん希薄化している……。最近まで「子ども」だった、現在は若者であるあなたは、そうした「語り」についてどう思うだろうか。自分の経験と比べてみて、どうだろうか。

教育問題について語られていることには、いろいろな偏りがある。そのため、どのような根拠があるのか、なにか見逃されていることはないのか、疑問を持ちながら批判的に吟味していく姿勢が求められる。この授業は教育問題について検討し、そこで語られている「常識」を疑っていくことを通して、教育に対する社会的な捉え方を身につけることを目的としている。授業を通して明らかにしたいのは、教育に関して語られる「通説」と実態とのズレ、そして裏づけのない「語り」が流布してしまう社会的な背景である。

2. 授業の到達目標

教育問題を批判的に吟味することを通じて、教育に対する社会的な捉え方を身につけること。

3. 成績評価の方法および基準

学期末試験(60%)と小レポート(20%)、平常点(20%)を総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

参考文献

参考文献は授業の中で紹介する。

5. 準備学修の内容

授業内容を把握するとともに、授業内で紹介する参考文献を読み、わからない用語を調べておくこと。

6. その他履修上の注意事項

教育社会学 Iの内容を踏まえた議論となるが、教育社会学 IIのみの受講も可能である。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション:教育社会学による教育問題へのアプローチ
- 【第2回】 教育問題の移り変わり(1):半世紀前の教育問題と今日の教育問題の違い
- 【第3回】 教育問題の移り変わり(2):学校教育の拡大と教育問題の変化
- 【第4回】 教育問題の移り変わり(3):情報化社会の進展と教育問題
- 【第5回】 教育問題の移り変わり(4):「子ども」の誕生とその揺らぎ
- 【第6回】 家族のしつけ(1):昔の家族は「しつけ」をしていたのか?
- 【第7回】 家族のしつけ(2):「教育する家族」の形成と普及
- 【第8回】 いじめ(1):子どもの自殺と「いじめ」
- 【第9回】 いじめ(2):社会問題化の過程
- 【第10回】 いじめ(3):社会問題化の副作用
- 【第11回】 教育問題と心理主義(1):なんでも「心」の問題にする態度(心理主義)の流行について
- 【第12回】 教育問題と心理主義(2):心理主義と新自由主義・新保守主義の関係
- 【第13回】 不登校(1):学校に行かないことへのまなざしの変化
- 【第14回】 不登校(2):逸脱の政治
- 【第15回】 まとめ:教育問題の過去と現在(オンライン授業)